

ビーワンの奇跡?!

全国各地から、この不思議現象に研究者が殺到!

沖縄県では、地球温暖化の影響でサンゴの白化現象が深刻な問題となっている。一度白化してしまうと再生は不可能だ。しかし、

沖縄県久米島では、ビーワンユーザーが島民の10%を超えました! 奇跡へのプロローグだ!

2010年5月19日 沖縄タイムス

「ビーワン」を月々使っているユーザーが「この見解でおおむね一致。同省は見解を受け、口蹄疫ワクチンの使用を速く決定する方向で検討に入った。」



国内最大規模のミドリイシ属サンゴの大群集。5月14日、久米島東海岸（横井謙三さん撮影）

久米島沖にサンゴ大群集

ミドリイシ属 深場で国内最大規模



久米島のサンゴ大群集発見場所

世界自然保護基金(WWF)ジャパンは18日、久米島の東側水深15〜35メートルの海域で北東から南西方向に長さ300メートル、幅200メートルのサンゴの大群集を確認したと発表した。深い海域でのミドリイシ属のサンゴ群集としては国内で最大規模という。

サンゴは枝状のミドリイシ属が多くを占め数百メートルを超えて広大な範囲に広がり、被度は70〜80%と非常に健全な状態にある。卵が周辺海域に放出されるなど生態学的な価値は高い。大規模なサンゴ群集は石垣島白保のアオサンゴ群集と並び、国内最大規模とされている。

山野博哉・地球環境研究センター主任研究員の話を聞いた。確認できた幅200メートル、長さ300メートルより大きい可能性が高い。大きな群落自体珍しいが、発見された群落はミドリイシ属以外にもハマサンゴなどいろいろな種のサンゴからなる。この群落のサンゴが卵を産み、沖縄本島に流れ、サンゴの供給源となっている可能性もある。学術的な価値も高い。

(南北約300メートル、東西約150メートル)が知られるが、深い海域での群集は研究例も少なく学術的な価値も高い。今後、サンゴの種や正確な範囲を調査する。WWFジャパンでは「沖縄のサンゴ礁が赤土の流出やオニヒトデの大発生、白化現象を引き起こす高水温などの影響で全般的に健全とはいえない中、今回の発見は、大変興味深く、希望を抱かせるとコメントしている。」

平良朝希久米島町長は「島の貴重な自然があらためて認められた。持続的な保護を図りたい」と話している。

地域

RSS 2.0

久米島沿岸にサンゴ大群集 WWF「国内最大級」

2010年5月19日    

久米島の南東約2～3キロの沿岸（通称・ナンハナリ）の水深15～35メートルで、この深さにある枝状サンゴとしては国内最大級のサンゴの大群集が見つかり、世界自然保護基金（WWF）ジャパンが18日までに確認した。主要な群集の分布範囲は長さ300メートル、幅200メートルまで確認できたが、全体の規模はさらに大きいとみられている。

サンゴの大群集は水深20メートルより浅い所で見つかるのが一般的で、深い所にある大規模群集は、成立過程や維持の仕組み、生態系における役割など研究例が少なく、学術的価値が高いという。

大規模のサンゴ群集は石垣島白保のアオサンゴ群集（南北約300メートル、東西約150メートル）があるが、それをしのぐ規模とみられる。

枝状のミドリイシ属の一種が多く見られる群集を中心に、分布の割合を示す被度は70～80%と高い。多くのサンゴ種が含まれており、周辺海域への幼生の供給源として、生態学的価値も高いという。

昨年8月、久米島泊漁港の漁業者とダイビングインストラクターが発見。WWFジャパンが中心の「久米島応援プロジェクト」が同11月から始めた現地調査で情報を入手し、今年4月と5月に調査し確認した。同プロジェクトは6月にも久米島で説明会を開き、漁業関係者や地元ダイバーと協力して調査を進め、持続的利用を考慮した保全の在り方を模索する。

WWFジャパンは「沖縄の海では近年、赤土の流出や、オニヒトデの大発生、白化現象を引き起こす水温上昇などの影響で、多くの海域でサンゴ被度が低下する状態が続いていた。今回のような高被度群集が形成・維持されていたことは大きな驚き」としている。

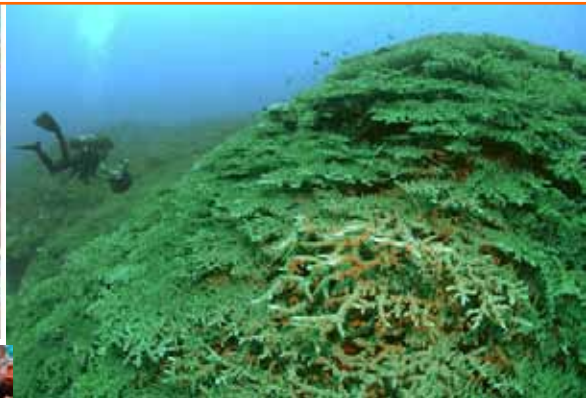


久米島沿岸で発見されたサンゴの大群集（横井謙典さん提供）



今回発見されたサンゴの群集位置

久米島沿岸にサンゴ大群集 WWF J「国内最大級」



久米島ではビーワンが家庭で島民の10人に一人(10%)が使用し、海に流されています。

環境浄化！美容室の排水溝までピカピカ



ビーワンオールによる環境浄化例



パーマやカラーなどの施術中に使用したビーワンオールが排水に流れ出ることにより…

美容室のストレーナーが自然に綺麗になりました

ビーワンシステムとは!?

“美と健康と環境”をテーマに天然水を用いた理美容・エステ技術。

パーマ、カラー、シャンプーなど全ての薬剤に天然水を混ぜて“安全・安心”な技術を提供しています。

“美”をごまかしません! “健康”を損ないません! “環境”を壊しません!

理美容業界の現状!?

■除草剤より強力なパーマ液!

コールドパーマ液の1剤と2剤をそれぞれ夏草に散布したら、ご覧のとりの結果に…。



除草剤散布1週間後



パーマ液1剤散布1週間後



パーマ液2剤散布1週間後

■カラー剤の急性毒性はスプーン1杯で…!

パーマ液の急性毒性をしのぐカラー剤は、環境ホルモン作用と生殖器官に重大な影響を及ぼします。



週刊現代は個人情報保護法案に断固反対します!

薬品に耐えられないお客様が急増中!?

薬剤の危険性に比例して、若年層ほど化学物質に敏感な方が増えています。

また、日用品に含まれる化学物質が皮膚から吸収されると

その大半は肝臓などで分解されることなく**毒性を保ったまま体内に蓄積**されて

婦人病やアレルギー、化学物質過敏症といった症状となって現れます。

とりわけ**界面活性剤**が化学物質の経皮吸収を飛躍的に高めています。



2003年(平成15年) 1月24日 金曜日 (日刊)

20代前半のアレルギー予備軍

9割

世界でも突出

花粉症やぜんそくなどのアレルギー疾患になりやすい体質の若者が急増し、20代前半では9割近くが「アレルギー予備軍」であることが、国立成育医療センター研究所や東京慈恵会医科大学の調査で分かった。各国の調査では、最も多い割合で、西研究所の斎藤博久部長は「調査した学生は、抗生物質の普及で子供の細菌感染が激減し始めた70年代後半の生まれで、清潔な環境が乳幼児の免疫機能の形成に影響を与えているのではないかと分析。予備軍が発症すれば、動き回りの若者の健康に悪影響が出、医療費が圧迫される危険性もある」と指摘する。

西研究所は10年から昨年にかけて、慈恵医科大学の20代前半の学生計2,000人の血液を採取。14種類のアレルギーの原因物質（抗原）に対する抗体を検査した結果、スギ花粉の陽性は18.7%、72%。なんらかの抗体に陽性反応があった学生は約8,000人（86%）に上った。

また、ニュージーランドの研究グループが昨年発表した10代前半の若者の調査では、陽性が55%。欧州諸国では30%前後という。

【金田健】

新毎日

安全・安心を提供するビーワンシステム!!

ビーワンサロンでは、パーマ液やカラー剤、シャンプーなどの薬剤（化学物質）を

原液のままでは使わず、ビーワンという天然水に混ぜることで薬剤の使用量を**通常の1/2から1/4**

くらいまで減らし、お客様に**“安全・安心”な技術**を提供しています。



パーマ液を 1 / 4 に希釈して散布 (左側)

パーマ液を散布して1週間後の結果

パーマ液をそのまま散布 (右側)

ビーワンという天然水の特長!!

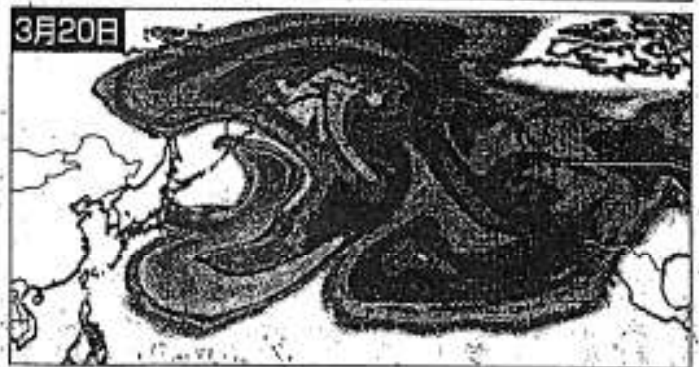
- 1: ビーワンの水はお肌や頭皮に対して抜群の**浸透力**があります。
- 2: ビーワンの水はダメージヘアーやお肌のトラブルに対する**蘇生力**があります。
- 3: ビーワンの水に混ぜることで薬剤（化学物質）を安定化させて**毒性を緩和**します。
- 4: ビーワンの水は化学物質を自然に分解する**浄化作用**に優れています。



放射性物質、大半海へ

気象研調査 10日で地球一周

放射性物質の拡散状況シミュレーション



0.001 0.01 0.1 1 10 100 1000 ベクレル/m²
(気象研究所の田中泰宙・主任研究官の図から作成)

東京電力福島第1原発事故で大気中に放出された放射性物質は太平洋を横断して約10日では地球を一周し、その結果として半分以上が海洋に落下したとするシミュレーション結果を、気象庁気象研究所(茨城県つくば市)などの研究チームが16日までにまとめた。放射性物質のうち、特に放射性セシウムは4月までに70〜80%が海に落ち、陸地に降ったセシウムは3割程度と推定されるといふ。チームの田中泰宙・気象研主任研究官は「福島原発は日本の東の端にあり、3〜4月は偏西風で運ばれるため陸地に落ちる量は少なめで済んだ。しかし海洋はその分、汚染されたはずだ」としている。

㊦ 放射性セシウム
セシウム134、137は半減期は約30年と非常に長い。セシウム137は体内に入ると筋肉などに蓄積されやすく、がんの原因となる。東京電力福島第1原発事故では放射性ヨウ素なども大気中に大量に放出され、国内各地で検出されている。放射性セシウムは、魚の種類によっては高い濃度で蓄積される可能性があるという。

シミュレーションは気象庁と気象研が開発し、地球全体の大気の状態を表した「気象研究所全球モデル」を利用。放射性物質のヨウ素131やセシウム134、137などの核種がどのように飛散したかを調べた。チームによると放射性物質が直径千分の1ミクロン程度の細かい粒子などにな

って拡散したと仮定して計算したところ、偏西風や低気圧の渦に乗り、上空に昇って拡散。太平洋を主に北回りに広がり、ロシア極東部やアラスカ近辺を通過して3月17日ごろに米西海岸付近に到達。同月24日ごろには、ほぼ地球を一周したとみられる。放射性物質の大半が大気によって運ばれるうちに雨で落下。ヨウ素131は放出量の約65%が海に落ちたという。研究結果は16日から名古屋で開催している日本気象学会で発表する。